

参議選に思う

日暮れて途遠けれど

島本 理夫

時代の流れをみてみると、まどろこしい。最近はいらいらすることが多くなった。でも、よく考えてみると、まどろこしいのは、時代の流れではなくて、どうやら人間様の対応の鈍さからきていることに気がついた。

例えば、参勤交代道を産業廃棄物で埋めても、「自分の所有地で手続きさえ通れば文句はなかるが……」という業者。市に対して「全市民の水源汚染の問題でしょうが……」といつても、それは生活環境課の領域で……いや農林課の……いや水道局の……いや教育委員会の……と、らちがあかん。結局、「地元と業者で話し合ってくれ」という。どの部門も打つ手の工夫も努力もないし、解決しようという執念はさらさらない。



でめられている。市民の五人に一人が高齢者という南国市で、直轄の一つの施設も、一人のヘルパーもいないとは……。「救貧への措置」時代から「住み慣れたところで豊かな老後」時代へ発想を転換することもなく、ひ弱な「市の介護力」の体質に気づかず、介護保険の対応におわれている。市の関係幹部との懇談で、南国市の介護問題の特徴、具体的な強化策を提言しても、いきいきとした反応が返ってこない。こちらの気迫の空回り、いらいらは募るばかりである。

この現実を動かすには、日暮れて途遠しの感があるが、それだけに参議院選挙にはどうしても勝たねばならぬ。

語り尽くそう

参議選に向けて

弘瀬和子

参議選は七月、早二カ月後に迫った。私は西岡さんの立候補決意を知った時、最適候補の誕生に一人笑みが浮かんだ。一九八九年の参議選では、西岡さんをはじめ各地で社会党国会議員が選出されたが、それは消費税反対の国民の



期待が結集されたものだった。ところがなんとその社会党自ら消費税五%アップを国会に提案した。

その時、西岡さんは仲間嫌がらせをはねのけ、敢然と反対の青色票を投じて公約を守り抜いた。激しい対決の場に直面しても、仲間間の一致団結があれば強い勇気と力が腹の底から湧き起こってくるものだが、仲間の裏切り程骨身にこたえるものはない。しかしその苦悩を乗り越え、公約を守り抜いた彼女なら、絶対の信頼を寄せて国会に送り出すことができると思っている。

三月の県会議員補欠選挙で近くの農家の方達に声をかけると、「減反で困っちゃう。転作いうたちろくに補助は出んし、高知新港ができたら安い作物がじかに高知に上がるき、もうやっていけんぞね」。などなど怒りが口からほとぼしり出る。「これまで共産党の主張はなかなか農家の方に分かってもえなくて。今からでは少し遅いかも知れませんが、入れてください」と言うのと、「いやいやこれ以上悪くならんようこれから頑張らないかん。よございませう」と言われ、私は自分の失言を恥じたが、長い人生、農業に打ちこんできた人の体の奥底から溢れ出る力強さを感じた。まだこれからの声ははっきり表に出せないもどかしさはある。だが静かにそして確実に地殻変動は起きている。この情勢の中で、広く広く語り尽くすならば「当選間違いなし」と、残された二カ月頑張りたいと思っている。

三五〇を読み切って
更に四〇〇の舞台へ

能勢 栄虎

県議補選から早くも一ヶ月が過ぎた。高新一面に「共産トップで制す」と戦ったあの感激はつい先日のように思われる。反面、この上なく後ろめたさを感じたものである。と言うのは今回の選挙ほど取組みの遅かったことはない。(私事の悪条件があったとはいえ。そしてまた山原先生から直筆の礼状を頂きなお更である。)十七、八年位前、ダイヤル式電話をプッシュ式に換えて、親子電話を三室へ設置したが、五年後に子供部屋を建てた機会に子供専用の別電話を設置、それ以後は邪魔されることなく票読み専念(?)できるようになっている。

さて二十一世紀の政治の方向を決すると言っても過言でない参議院選は負けることのできない一大政治決戦である。西岡必勝をめざして悔いのない取組みをしなければと肝に銘じている。高尚な理論は諸先輩におまかせするとして、小生には実践しかない。是非とも三百五十は読み切りたいと思っている。今迄一度も四百の大台へ載せたことはないが、できればなんとかやってみたいと決意しているところである。そのためには一日十票として四十日、余裕を考えれば五十日前から本腰とりからなければならぬ。その前段で資料の整理を十分し、効率のよい対応ができるよう準備を怠らなければと考えている。

ぜひお読み下さい

西岡るり子・栗原透著

「無党派の挑戦」

碓田のぼる著

「無党派+共産党の

時代」

二冊とも1500円

申込 高教組22-6822

竹島 32-1097

窪田-44-0333

